

# 小学校外国語活動・外国語の体験的学びのために

— 英語村を活用したイマージョン教育の可能性について —

戸谷 敦子

広島都市学園大学 子ども教育学部

## 要 旨

小学校学習指導要領の改訂にともない、2020年から小学校では3、4学年で「外国語活動」が年間35時間、5、6年生では成績評価をともなう「外国語」が年間70時間実施される。本稿では、外国語を用いたコミュニケーションを楽しみ、言語や文化についての理解を体験的に深めていく場としての英語村に着目し、その活用の可能性について探りたい。

**キーワード：**小学校外国語活動・外国語、異文化体験、教授方法、イマージョン、英語村

## 1. はじめに

2020年から小学校中学年からの英語教育が全面実施される。外国の言語や文化を知る楽しさを体験的に学ぶには、児童の発達段階を考慮しながら、五感で吸収できるような教授方法が望ましい。外国語教授方法は、読んで訳すことを中心とした文法訳読教授法（Grammar-Translation Method）が古くは主流であったが、時代とともに変遷している。1920から50年代にかけては口頭練習を多く取り入れたオーラル・メソッド（the Oral Method）が広く実践され、1940から70年代には、同じ文章パターンを用いて口頭練習を繰り返す「パターン・プラクティス」を取り入れたオーディオリンガル・メソッド（Audiolingual Method）が主流となった。近年は、コミュニケーション能力の育成を目的とした「コミュニケーション・ランゲージ・ティーチング（CLT：Communicative Language Teaching）」や、教科学習と外国語学習を統合した「内容言語統合型学習（CLIL：Content Language Integrated Learning）」など新しい教授法が提唱されている（岡ほか2012）。中でもイマージョン（immersion）は、母語以外のすべての教科を外国語で教えるなど、外国語環境に「浸す」、つまり外国語漬けにする教育方法である。

使用言語を英語とする英語村では、活動のすべてにおいて英語でコミュニケーションをとる必要があり、このイマージョン教育を疑似的に体験できる。実際、英語村ではダンスプログラムや、買い物など、様々な学習や日常生活の場面が用意され、体験的な英語の学びが可能である。渡航時間や費用がかかる海外留学より、手軽で便利ことから台湾や韓国などの近隣諸国ではすでに多くの英語村が展開されている。韓国ソウルの英語村キャンプを調査したカレイラ（2013）は、英語村でのプログラムに参加した多くの児童が、英語村での学習が面白くて有益だった、英語学習への興味が高まったと評価していると報告す

る。最近、日本国内でも各地に英語村が設立され始め、数も増えつつある。英語村には、単発の異文化体験や、定期的な外国語学習などの場として、児童が外国語を体験的に楽しく学べる可能性がある。本稿では、国内の英語村事情を把握し、効果的な活用法について探りたい。

## 2. 英語村のタイプ

海外の英語村を調査した大城（2016）は、英語村は大きく4つのタイプに分類できるとし、①学校付属型、②テーマパーク型、③教員研修中心施設型、④市民開放型と名付けている。

学校附属型は、学校に附設され、利用者はその学校の在籍者や近隣の小学生などである。設置の背景には、英語教育の充実やグローバル人材の育成を重要視する学校の教育方針や、学校を取り巻く地域性（例：国際化、経済的拠点など）がある。活用内容は、主に学校在籍の児童・生徒への英語教育プログラムで、CLIL的な英語を使った教科学習や、レクリエーション的活動のほか、近隣の小学生も利用できる一日体験プログラムなどがある。施設には空港やレストラン、商店などを模した場所があり、英語を実際に使って活動することができる。

テーマパーク型は、学校での英語教育を補完する、比較的大規模な施設である。広大な施設の中で、空港を模した施設で入管を疑似体験した後、外国を模した建物や風景のなかで、展示館などの文化施設や、レストラン・店などの商業施設で、英語を使ったコミュニケーションを体験できる。宿泊施設も完備され、数日から1か月くらいの滞在が可能な処もある。施設内では、幼児から大人まで楽しめる様々な英語プログラムが用意されている。

教員研修中心型は、主な対象者は教員で、小学校、中学校、高等学校の各教員対象の英語研修プログラムを展開している。オンラインプログラムや海外研修を合わせた集中研修など、多様なプログラムがあるほか、夏休みには児童生徒向けのサマープログラムもある。日本の自治体の教員研修センターが英語科目のみに特化された感じである。

市民開放型は、自治体を中心となり教育委員会と連携して運営し、児童・生徒を含むすべての市民のための英語村として開放されている。施設内では、外国の疑似体験プログラムや、英語力アップのための学習プログラムの他、図書館では英語書籍を市民が閲覧できるなど、多様なプログラムが容易されている。大城は、日本ではこのタイプを基本形とする市民交流広場としての英語村を推奨している。

## 3. 日本の英語村

大賀の分類法を援用して、日本国内で増えつつある英語村状況の把握を試みた。すべての英語村を網羅するのは困難なため、インターネット上で検案件数の比較的多い英語村7つについて次頁の表1にまとめた。①～④の型が、混合しているタイプがあるため、その場合は、◎でその英語村の主軸を表し、○で併設される機能を表した。また、表内では、

英語村の4つのタイプの他,「運営」と「費用」の欄を設け,その英語村の経営主体と利用の費用についても記した。

表1 日本国内の英語村事例

	学校付属型	テーマパーク 型	教員研修型	市民開放型	運営	費用 (円)
Hello Village	◎昼休み,放 課後の「校内 留学」				京都市立 日吉ヶ丘 高校	無料
公立鳥取 環境大学 英語村	◎月～金の午 後に学生や小 学生以上の市 民を対象に語 学プログラム その他,小学 校など地域で の出張講義			○「まちなか 英語村」を毎 週木曜日午 後,市中で運 営,市民対象	公立鳥取 環境大学 国際交流 センター	無料
近畿大学 英語村E <sup>3</sup>	◎在籍学生対 象,常設のカ フェでの交流 の他,毎月各 種のアクティ ビティや季節 の行事が行わ れている。		○小学校,中 学校,高校の 英語担当教員 を対象とする 研修プログラ ムが時折開催 される。	○春季・夏季 の大学休暇中 は,付属学校, 幼稚園向けプ ログラムの 他,高校生以 上の一般市民 向けプログラ ムもあり,利 用可能。	近畿大学	無料
Tokyo Global Gateway (2018年 9月開設 予定)		◎半日,1日, 1泊2日,2 泊3日コー ス,小学生～ 高校生対象			東京都+ 民間事業 者	2,400～ 25,000

Osaka English Village		◎アメリカ体験型施設, 幼児～大人対象 10:00～22:00 (小学生は18:00迄)			YBM JAPAN	入場料 540 + レッスンごとに加算
British Hills		◎英国体験型施設, 幼児～大人まで, 英語研修, 宿泊, 食事, カルチャーレッスン, 買い物の他ウェディングも可能な大規模施設	○英語研修のなかに中学校, 高校, 小学校英語教員向け研修あり		神田外語グループ	有料 (プログラムによる) 例: 小学生団体宿泊研修 1泊2日 レギュラーシーズンの場合 1人 10,700
English Village Maebashi				◎幼児～大人まで, 体験型からオンライン講座まで各種プログラム	中央カレッジグループ	有料 (プログラムによる)

出所: インターネット上の各団体ホームページを参照 (参考文献)

## 4. 考察

(1) 学校付属型: 調査した7つのうち3つが学校付属型 (高校が1, 大学が2) であった。英語村はその高校・大学での英語教育やグローバル人材育成へのてこ入れを打ち出せる存在でもあり, 学校・大学のホームページでも英語村の存在を広報している。高校が在籍生徒を対象としているのに対し, 大学付属の英語村は一般市民の英語学習や英語担当教員の研修にも門戸を開いている点が特徴である。但し, 無料で一般公開するが, 公開期間は大休中などに限られることから, 一般の利用は限定的となる。学校付属型は, 本来,

その学校の予算を使いその学校の在籍者を対象としたものであり、近隣の小中高生の英語運用能力向上への活用には限界があるが、単発の訪問体験学習には有効である。一方、公立鳥取環境大学の英語村のように、近隣の学校に出張プログラムを実践しているタイプは、英語力向上の継続的な地域貢献性が期待できる。小学校での出張プログラムでは、児童は大学生と英語で交流する楽しさを体験でき、大学生は児童に外国語活動の楽しさを伝える良い機会になると思われる。

(2) テーマパーク型：テーマパーク型3村のうち、民間事業者のみの運営が2村、自治体と民間事業者の連携タイプが1村であった。いずれも規模が大きく、施設も完備され、ネイティブスピーカーのスタッフによる各種プログラムの豊富さを謳っている。その分、費用はかかり、入館料の他、レッスン費用も受講プログラムごと増える仕組みである。2村は宿泊も可能で、特にBritish Hillsは1泊2日の体験型から1～2週間の滞在型英語研修プログラムも用意され、国内で最も充実したテーマパーク型英語村のひとつと言える。小学生の英語学習への活用法としては、費用面と発達段階を考慮すれば、単発での導入期の体験型学習（日帰り）か、英語学習の集大成として、6年次の修学旅行（1泊2日程度）に活用することも有用であろう。

(3) 市民公開型：English Village Maebashiは民間事業者が運営しており、幼児から大人まで一般市民が誰でも利用できる英語村である。英語村の施設を使ったスポーツ、料理など各種の英語プログラムの他、オンラインでの英語講座も開催している。自治体が、閉校した小学校を利用した事業を公募し、英語村を提案した事業者が20年間の定期建物賃貸借契約を締結して始まった地域活性プログラムでもある。英語村を始めたい地域にとって、ひとつのモデルとも言える。

(4) 教員研修型：教員研修に特化した英語村ではないが、近畿大学英語村やBritish Hillsには教員研修プログラムも提供されている。持続的な研修の場とするには、前者は開催数の少なさ、後者は費用面に課題がある。児童の英語能力の向上には、指導する教員の継続的な能力開発が必要であり、2020年からの小学校英語教育の全面実施を考えれば、教員研修の充実を支えるための施設は喫緊の課題である。例えば、韓国の英語村の多くは自治体から助成を受けているため参加費用が低く抑えられており、受講料の負担が少なく(カレイラ 2013)、そのうえ教員研修用のプログラムも豊富である(大城 2016)。日本では、寝屋川市が英語教育事業の一環として、平成26年から教育研修センターに英語村を開設している。英語村には自治体が雇用する6人のネイティブスピーカー教員が常駐し、近隣の小・中・高校生に英語の授業を行っており、授業の他、民間の英語検定試験の面接練習や英語スピーチコンテストの練習等も英語村で受けることができる(仲川 2015)。このような英語村が各自治体に存在すれば、近隣の児童・生徒と教員にとって、費用面でも機会面でも安定した学習と研修の機会が設けられるであろう。

## 5. まとめ

日本国内の英語村の事例を4つのタイプに分類して検討してきた。学校付属型では、単発の訪問異文化体験、また近隣の学校に出張プログラムを実践している場合、地域の英語力向上への継続的な貢献が期待ができる。テーマパーク型は、導入期の体験型学習（日帰り）か、英語学習の集大成として、6年次の修学旅行（1泊2日程度）に活用することも有用であろう。自治体の教育研修センターを活用した英語村では、児童・教員の持続的な英語学習・研修が可能である。

考察の結果、最も望ましい英語村のありようとしては、費用面の負担が少ない、近隣の児童や教員に開放されている、施設や人的リソースが整い、質の高い体験的学習や研修機会が持続的に得られる英語村が、各自治体にあることが望ましい。既存の設備や人的リソースが活用できれば事業コストも抑えることができる。例えば、寝屋川市のような教育研修センターや、各自治体の国公立大学なども英語村の施設候補に考えたい。人的リソースは、教職員、学部生や大学院生（英語教育専攻学生や英語サークル所属の学生など）、留学生、英語コミュニケーションが可能な外国人住民なども考えらえる。持続可能な運営のためには、自治体からの助成や、グローバル人材育成の観点から地域の産業界からの支援も肝要であろう。

今後の研究課題としては、韓国など英語村が広く展開している国の事例から、児童の学習に効果のあるプログラムや、運営の成功例などについても調べてみたいと思う。

## 参考文献

- 大城賢 (2016)「台湾（桃園市・台北市）の英語村：日本での応用を考える」琉球大学教育学部紀要88：165-174.
- 岡秀夫・金森強. (2012)「小学校外国語活動の進め方 「言葉の教育」として」成美堂.
- カレイラ松崎順子 (2013)「ソウル英語村ブンナブキャンプ」のプログラム評価」Review of Asian and Pacific Studies No38:79-94.
- 神田外語グループ. パスポートの要らない英国. British Hillsホームページ, <http://www.british-hills.co.jp/> (参照年月日：2017年11月10日)
- 京都市立日吉ヶ丘高校. 「PUB QUIZ 2」. 京都市立日吉ヶ丘高校ホームページ, [http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=300704&type=2&category\\_id=12094](http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=300704&type=2&category_id=12094) (参照年月日：2017年11月20日)
- 近畿大学. 近畿大学英語村E<sup>3</sup> [e-cube] とは. 近畿大学ホームページ, <http://www.kindai.ac.jp/e-cube/guide/> (参照年月日：2017年11月2日)
- 公立鳥取環境大学. 英語村. 公立鳥取環境大学HP, <https://www.kankyo-u.ac.jp/campuslife/englishvill/> (参照年月日：2017年11月2日)
- TOKYO GLOBAL GATEWAY. TOKYO GLOBAL GATEWAY (TGG) ホームページ, <https://tokyo-global-gateway.com/> (参照年月日：2017年11月20日)
- 中央カレッジグループ. 英語村 イングリッシュビレッジ 前橋. English Village Maebashiホームページ, [www.english-village.jp/](http://www.english-village.jp/) (参照年月日：2017年11月5日)
- 仲川浩世 (2015)「小学校における外国語活動展開事例の検討：授業観察記録を基礎として」関西外国語大学研究論集101：167-181.

戸谷敦子 小学校外国語活動・外国語の体験的学びのために  
—英語村を活用したイマージョン教育の可能性について—

YBM Japan. OSAKA ENGLISH VILLAGE (大阪 英語村) Expo City. Osaka English Village ホームページ, <https://englishvillage.co.jp/> (参照年月日：2017年11月20日)